

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

| | | | |
|-----------|---|--|--|
| 1 施設名 | 仙台市若林図書館 | | |
| 2 指定管理者 | 株式会社ヴィアックス | | |
| 3 指定期間 | 令和5年4月1日～令和10年3月31日 | | |
| 4 施設の利用状況 | 《利用者数》 令和5年度 152,894人団体〔個人:152,634人、団体・文庫:260団体〕(前年度比 88.3%) 令和4年度 173,126人団体〔個人:172,889人、団体・文庫:237団体〕(前年度比 109.9%) 令和3年度 157,482人団体〔個人:157,328人、団体・文庫:154団体〕(前年度比 101.9%) | | |
| | 《事業》 仙台市若林図書館の運営管理 | | |
| 5 収支の状況 | 《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 103,561千円 (97,756千円) ・ その他市が負担した費用 15,003千円 (14,972千円) | | |
| | 《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 21千円 (30千円) | | |
| 6 利用者の声 | 《実施状況》 ・利用者アンケート 実施期間:令和5年12月10日～12月23日 ・利用者懇談会 開催日:令和6年2月15日 | | |

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

| 評価分野 | 所見 | 評価 |
|----------------|--|-------|
| I 総則 | 図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。また、サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。 | 24/24 |
| II 施設の運営管理体制 | 職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり、指定管理料は適正に執行されている。 個人情報保護に努めるとともに図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底している。危機管理マニュアルを作成し、必要な研修を実施している。 災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。 | 30/30 |
| III 施設・設備の維持管理 | 建物、設備及び備品は適切に管理されている。また、カウンターでは持ち寄られた紙袋を本の持ち帰り用に希望する利用者へ提供したり、館内の子どもトイレに節水を呼びかける掲示をする等、環境へ配慮した取り組みがなされている。 | 17/17 |
| IV サービスの質の向上 | 事業のない土日祝日に視聴覚室を学習スペースとして開放することで、学校や家庭以外の居場所としての図書館利用が増加したほか、新聞閲覧コーナーと児童向け郷土資料コーナーにおける閲覧席の増設により、短時間の調べものや資料閲覧など従来とは異なる利用傾向が見られ、利用者層の拡充につながった。 職員の教育・研修において、定例休館日に、接遇研修や個人情報保護研修など、全職員が参加する研修を実施し、サービス水準の確保に努めている。また、図書館が果たす地域貢献等に関する研修やブクトーク研修など、職員の資質向上のため積極的に各種研修を受講している。 | 27/27 |
| V 施設固有の基準 | 震災の記録を継承し風化を防止するため、せんだい3.11メモリアル交流館と連携し、同施設から講師を招いて展示やイベントの解説のほか、若者たちの取り組みについて紹介した。加えて、若林区の農業地帯としての成り立ちに着目し、せんだい農業園芸センターみどりの杜と連携して野菜づくりに関連した講演会を行った。 また、6月に新たなサービススポットとして、せんだい3.11メモリアル交流館内に開設した荒井サービススポットにおいては、運営主体として地域への事前周知など開設準備に取り組み、開設後も円滑に運営し、開設から7か月で当初目標の年間利用者数3,000人を上回るなど、地域に密着した安定的なサービスを提供している。 | 19/17 |

三 評価総括

| 《指定管理者（株式会社ヴィアックス）による自己評価》 |
|--|
| <p>若林区文化センターの改修工事による影響を受けながらも「誰もが使いやすく、どこに住んでいても情報が身近に届く、市民一人ひとりに利用しやすい図書館」の実現を目標に運営を行った。令和5年6月に開設した荒井サービススポットでは、10か月で利用者数4,700人を超え、既設の中田サービススポットの年間利用者数を上回り、年度当初に示された目標を実現することができた。</p> <p>令和5年度は若林図書館開館30周年でもあり、「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の目標の実現に向けて「本にまつわる講演会」「本の世界に入ってみよう」などの記念事業のほか、地域連携事業として「せんだい農業園芸センターみどりの杜」と野菜づくりの講演会を実施し、前年度以上の盛況ぶりであった。震災関連事業では「せんだい3.11メモリアル交流館」と連携し、地域の窓口として人々の交流や地域の記憶、震災の教訓を継承し、地域再生の場としての同館の活動を紹介することができた。定例事業ではオンラインおはなし会を定例化し、来館しづらい方も参加できる事業としたことで潜在的な利用者を獲得できた。加えて図書館活用講座として電子図書館講座、YA向け事業として「なるには講座」や中高生による「としよ部」など幅広い年齢層を対象に図書館の利用を促進する事業を行った。</p> <p>職員研修では全職員を対象に接遇研修、人権啓発研修を実施し、「市民一人ひとりに利用しやすい図書館」として、あらゆる人に使いやすい図書館サービスの推進に努めたほか、「自らの変革を進める図書館」として、図書館と知識社会をテーマとするシンポジウムに参加し、新しい価値を創造する市民の力を醸成するための自館運営の参考とした。</p> <p>施設運営管理面では、大規模改修工事に伴う臨時窓口移設等の準備を行い、利用環境を維持しながら、市民の学びを支える生涯学習施設としての図書館の役割を果たすことができたと思う。</p> |

| 《施設設置者（仙台市）による評価》 | 総合評価 |
|--|------|
| <p>令和5年度は開館30周年を迎え、記念事業として本にまつわる講演会やワークショップのほか、クロマキー合成撮影を用いて参加者が本の中に入り、自らが物語の主人公になるという体験型イベント「本の世界にはいってみよう」などを開催し、新たな利用者の獲得に努めた。</p> <p>子ども読書活動推進に資する事業としては、区内児童館やのびすく若林との連携による、乳幼児と保護者を対象としたおはなし会の実施や、非来館型サービス「オンラインおはなし会」の定例事業化など、乳幼児と保護者が読書に親しむとともに、本を通じてコミュニケーションを深める機会の提供を積極的に行った。また、中高生を対象に、中高生向けの図書館通信の作成や選書、本の修理などを行うYA（ヤングアダルト）サポーター「としよ部」を発足し、中高生の読書活動の推進を図った。</p> <p>また、前年度に引き続き、地域の歴史や魅力を発信する取り組みとして、地域の団体、施設等と連携し、様々な事業を行った。せんだい3.11メモリアル交流館との連携事業では、同施設から講師を招いて展示やイベントの解説に加え、若者たちの取り組みについての映像資料等を紹介するなど、東日本大震災への向き合い方を改めて考える機会を提供した。前年度も好評だった、せんだい農業園芸センターとの連携による講演会は、前年度を上回る参加があり、開催の継続を望む声も多く寄せられていることから、利用者のニーズに合った事業であると評価できる。</p> <p>6月に新たなサービススポットとして、せんだい3.11メモリアル交流館内に開設した荒井サービススポットにおいては、運営主体として地域への事前周知など開設準備に取り組み、開設後も円滑に運営し、開設から7か月で当初目標の年間利用者数3,000人を上回るなど、地域に密着した安定的なサービスを提供している。</p> <p>誰もが利用しやすい図書館のための取り組みとして、事業のない土日祝日に視聴覚室を学習スペースとして開放することで、学校や家庭以外の居場所としての図書館利用が増加したほか、新聞閲覧コーナーと児童向け郷土資料コーナーにおける閲覧席の増設により、短時間の調べものや資料閲覧など従来とは異なる利用傾向が見られ、利用者層の拡充につながった。</p> <p>職員の教育・研修においては、定例休館日に、接遇研修や個人情報保護研修など、全職員が参加する研修を実施し、サービス水準の確保に努めている。また、図書館が果たす地域貢献等に関する研修やブクトーク研修など、職員の資質向上のため積極的に各種研修を受講している。</p> <p>以上、若林図書館の指定管理者は、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、地域の施設等と連携しながら職員が工夫をして新しい取り組みや、魅力的な事業を実施し、サービス向上に貢献している点が大いに評価できる。</p> | S |

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

| 特記事項 |
|------|
| |